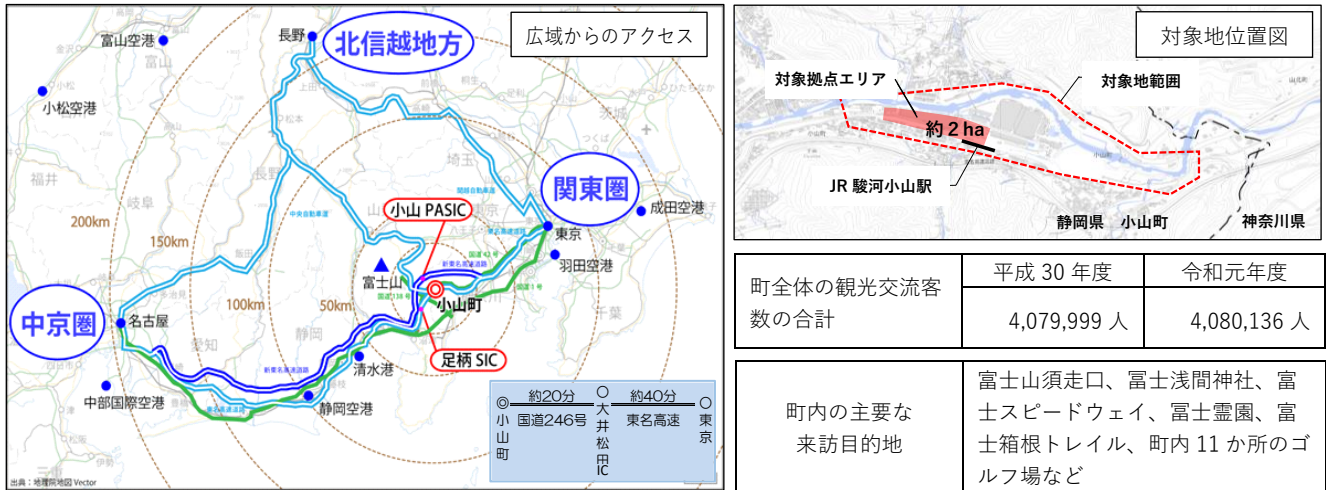


策定の目的と背景

町をとりまく社会経済情勢や交通状況の変化を新たな好機と捉え、駿河小山駅周辺の賑わい創出による地域活性化を図るため、対象拠点エリアの活用ビジョンを策定します。

策定の背景

- 交通基盤整備の充実による広域圏からのアクセス性の向上
- 産業拠点や観光拠点の整備による多様な雇用機会の創出
- 新型コロナウイルス感染拡大による地方回帰や地方移住への関心の高まり
- 東京オリンピック 2020 レガシーやインバウンドによる地域活性化への期待



ビジョンの理念

基本コンセプト

まちの魅力を未来に伝える

誰もが立ち寄り、訪れる「地域の駅」 駿河小山

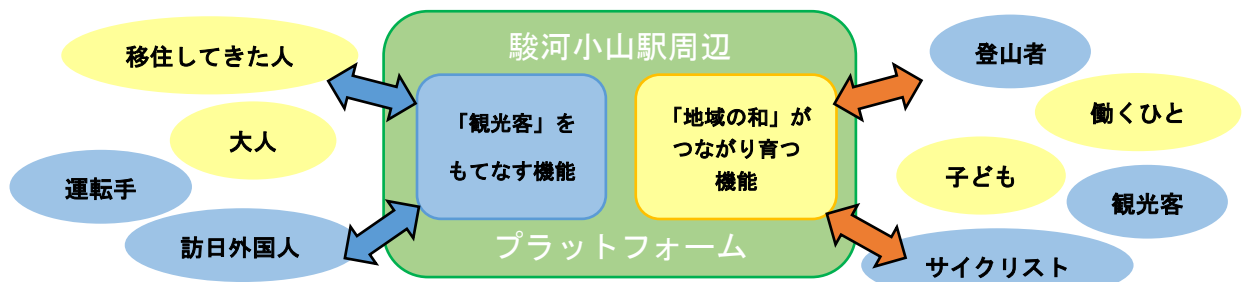
①「観光客」をもてなす機能

- ・国内外からの観光客をもてなし、町の魅力を発信する場
- ・国道246号を通る自動車の運転手やサイクリスト等の休憩の場
- ・町の歴史を感じ、新たな水辺の賑わいを創出する場



②「地域の和」がつながり育つ機能

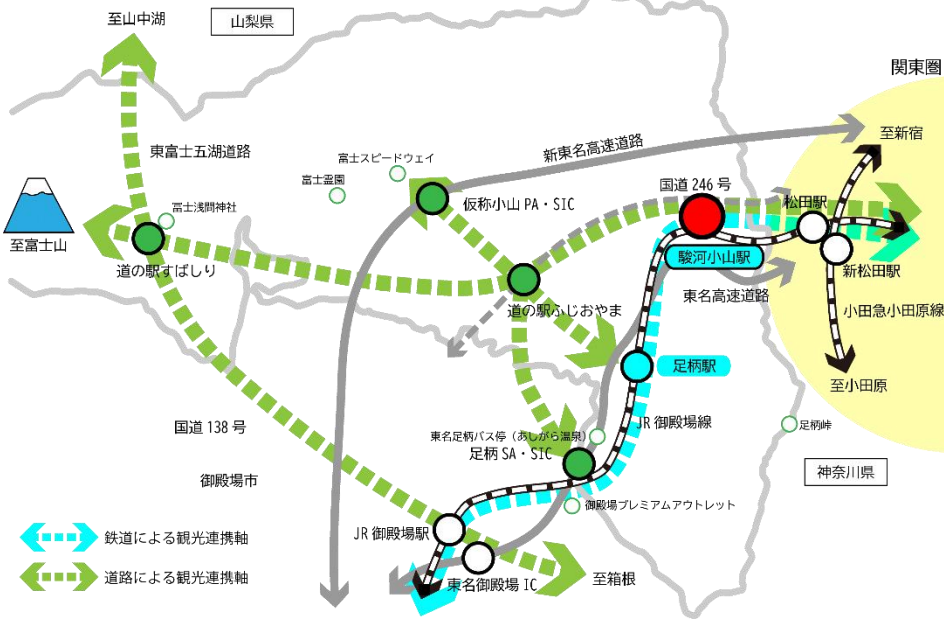
- ・町の歴史・文化が感じられ、未来を担う子ども達が楽しく学ぶ場
- ・様々な世代の町民の交流を育みながら、待ち時間も楽しく過ごせる憩いの場
- ・地域資源を活用し、町民がいきいきと働き活躍する場



「小さな経済循環」を複数生み出し「大きな域内循環」へと育てる → 周辺エリアの期待値を向上

ビジョン図

道路と鉄道の2つの連携軸によるダブルの効果的な集客と、それぞれの拠点との連携による回遊性を高めることで、駅周辺や町全体の賑わいを創出します。



【道路による観光連携軸】

道路による観光連携軸は、高速道路のインターチェンジやスマートインターチェンジ、国道の「道の駅」といった交通結節点により、小山町や周辺都市の観光地と関東圏を結んでいます。新東名高速道路・小山 PASIC が供用されると、北信越地方や中京圏、また全国からの更なる観光客の流入が期待できます。

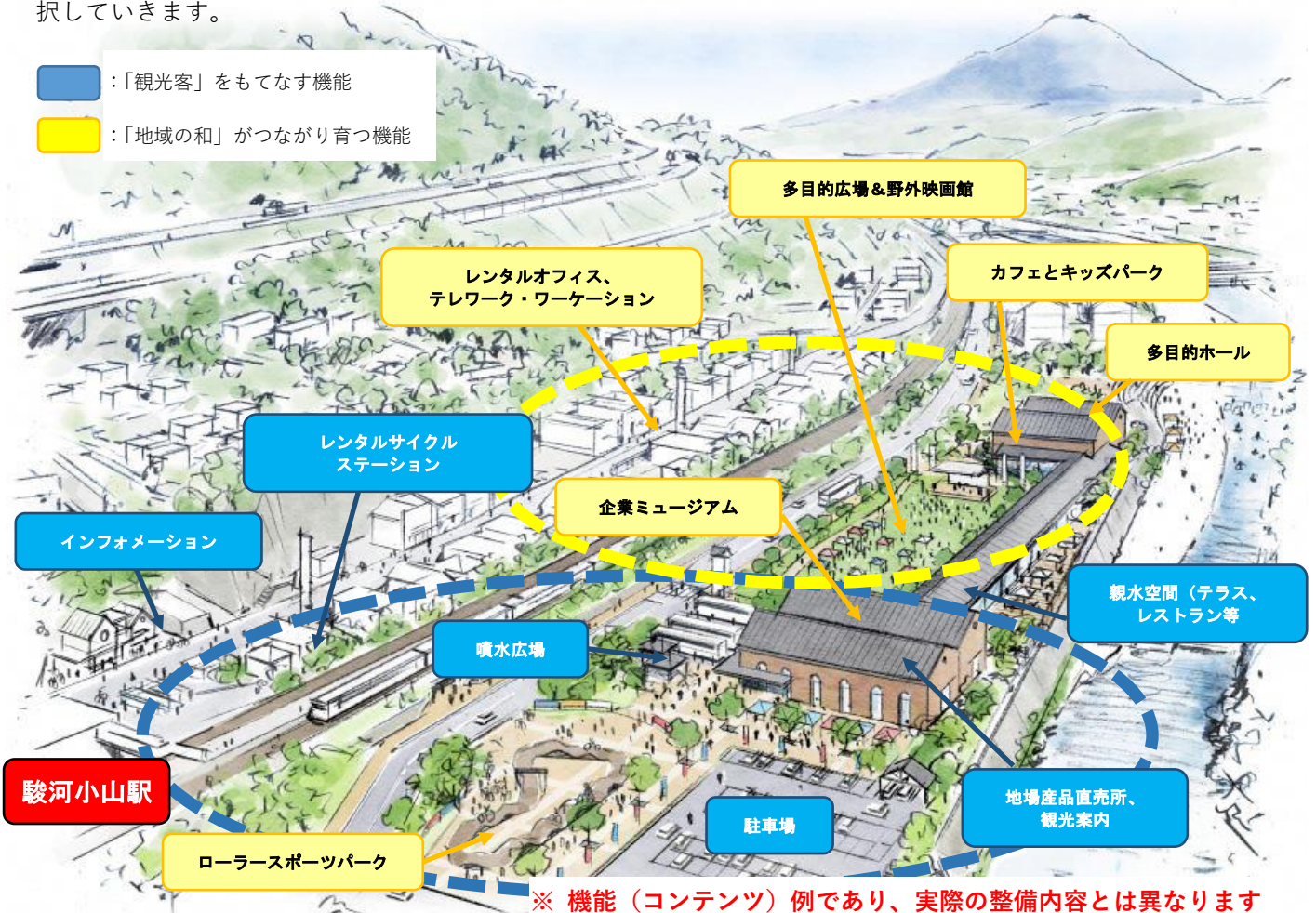
【鉄道による観光連携軸】

鉄道による観光連携軸は、JR 御殿場線により箱根・伊豆・西湘地域と連携しており、全国へとつながっています。特に海外からの観光客は鉄道を利用し、世界遺産である富士山や周辺の観光地を訪れるため、鉄道駅は重要なアクセスの拠点の一つとなっています。

イメージパース

イメージパースは、本ビジョンのイメージを共有するため機能の例を用いて作成したものです。実際の整備内容とは異なります。建築物の規模・内容は今後の民間事業者を含めたヒアリングで最適化を図り、整備手法は柔軟に選択していきます。

- : 「観光客」をもてなす機能
- : 「地域の和」がつながり育つ機能



※ 機能（コンテンツ）例であり、実際の整備内容とは異なります